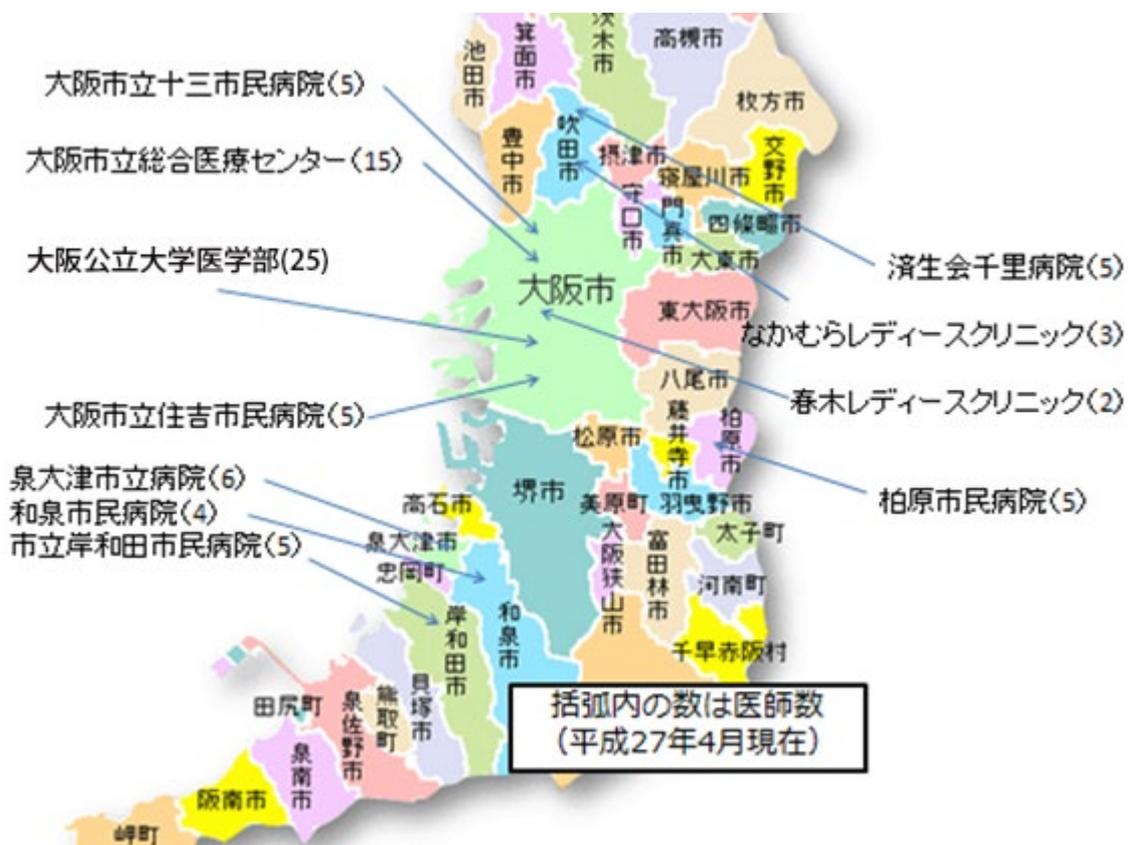


大阪公立大学専門研修連携施設群



各研修病院における手術件数と分娩件数(平成26年1月~12月)

	総手術件数	婦人科手術	子宮内容除去	産産地下手術	分娩数	帝王切開
済生会千里病院	550	470	20	260	240	60
市立柏原病院	160	70	20	30	350	70
和泉市立病院	220	200	20	30	-	-
市立岸和田市民病院	240	220	30	120	150	20
泉大津市立病院	280	60	120	15	700	100
大阪市立住吉市民病院	330	170	60	80	600	100
大阪市立十三市民病院	240	100	40	30	605	100
大阪市立総合医療センター	990	480	60	180	900	450
大阪市立大学医学部附属病院	930	680	50	180	720	200

各教育研修病院における研修体制

病院	周産期	婦人科腫瘍	生殖内分泌	女性ヘルスケア
なかむらレディースクリニック			◎	○
香本レディースクリニック			◎	○
済生会千里病院	○	◎	○	◎
市立柏原病院	◎	◎	○	◎
和泉市立病院		◎		◎
市立岸和田市民病院	○	◎	○	◎
泉大津市立病院	◎	○	○	◎
大阪市立住吉市民病院	◎	○	○	◎
大阪市立十三市民病院	◎	○	○	◎
大阪市立総合医療センター	◎	◎	○	◎
大阪市立大学医学部附属病院	◎	◎	○	◎

大阪公立大学医学部附属病院

指導医	古山将康、角俊幸、他
疾患の比率	周産期 40%、婦人科腫瘍 40%、生殖内分泌・女性ヘルスケア 20%
医師数	25 人
病床・患者数	病床 82 床、分娩数 720 件/年、婦人科手術 680 件/年、搬送数 100 件/年、外来患者数 36000 人/年
病院の特徴	「日本産科婦人科学会専門研修施設」に加えて「周産期専門医制度基幹施設」および「婦人科腫瘍研修認定施設」となっています。サブスペシャリティである周産期（母体・胎児）専門医、婦人科腫瘍専門医、生殖医療専門医の取得可能です。また、産婦人科内視鏡学会認定医も取得可能な施設。
研修の特徴	良性から悪性まであらゆる婦人科疾患、母体救命、胎児救命、NICUを含む周産期疾患、腹腔鏡・骨盤臓器脱を含む生殖内分泌疾患・女性ヘルスケアなど豊富な症例をそれぞれの専門家による手厚い指導にて研修することが可能。
臨床研修の内容	専門研修 1 年目：指導医とともに様々な領域の疾患の患者さんを担当し、産婦人科診療に必要な基本的な姿勢、技術を身につける。帝王切開や単純子宮全摘術など基本術式の第 1 助手を担当する。 研究活動：カンファレンスでの症例提示や抄読会発表に加えて、学会発表、論文執筆・投稿を行う。
単年度専攻医受け入れ可能人数	10 名

大阪市立総合医療センター

指導医	川村直樹，中本収，中村博昭，徳山治，田中和東，梶谷耕二
疾患の比率	周産期 50%、婦人科腫瘍 40%、生殖内分泌・女性ヘルスケア 10%
医師数	19 名
病床・患者数	病床：産科 46 床（うち MFICU6 床）婦人科 23 床（+共用 9 床）

	分娩数 900 件/年、婦人科手術 500 件/年、搬送数 250 件/年、 外来患者数 25000 人/年
病院の特徴	1063 病床，50 以上の診療科・救命救急センター・ICU・緩和病 棟・外来化学療法室を有する大規模高機能病院。臨床研修指定 病院。多職種によるチーム医療が充実している。 「総合周産期母子医療センター」の指定を受けており MFICU 6 床，NICU12 床を有する。小児系部門は成人系部門と同じように 診療科が細分化されていることから，胎児異常（各科先天異常） 症例も多数紹介を受けている。「周産期専門医制度基幹施設」， 「婦人科腫瘍専門医指定修練施設」，「日本産婦人科内視鏡学会 認定研修施設」
研修の特徴	産科と婦人科はそれぞれ独立しているため，研修は期間を分け て行う。 産科：総合周産期母子センターの指定を受けており，母体救急 搬送・重症母体合併症症例だけでなく，胎児異常症例など，他 の病院では経験できないような症例を日常的に経験できる。合 併症を有する妊婦が多いため，帝王切開率は 40～50%。 婦人科：悪性腫瘍診療，腹腔鏡手術に積極的に取り組んでいる。
臨床研修の内 容	産科または婦人科に分かれ，指導医（主治医）とともに担当 医として病棟業務・手術を中心に研修する。手術では帝王切 開・単純子宮全摘術など基本術式の第 1 助手を担当するが， 研修後半では術者として帝王切開を執刀する（10 例以上）。 研究活動：カンファレンスでの症例提示，抄読会発表、学会発 表を行う。
単年度専攻医 受け入れ可能 人数	4 名 ただし，大阪市立総合医療センター自体が独立した基幹施設で あり，そのプログラム採用の専攻医も含め 4 名

なかむらレディースクリニック

指導医	中村 嘉宏、藤野 祐司、中村 容子
疾患の比率	生殖内分泌 90%、女性ヘルスケア 10%
医師数	3 名

病床・患者数	年間採卵数 1500 件、年間外来患者数 15,000 人
病院の特徴	高度生殖補助医療に特化したクリニック
研修の特徴	日本生殖医学会認定生殖医療専門医認定研修施設であり、大阪府下で有数の症例数を有するクリニック。がん生殖医療にも力をいれており、白血病患者の卵子凍結数は日本有数。その他、生殖医学研究センターも併設し、研究体制も整っている。
臨床研修の内容	採卵手術、胚移植手術などの高度生殖医療の基本技術を習得する。顕微授精や凍結操作など胚培養に関する技術も習得可能。週に一度培養士、看護師を含めたカンファレンスを開き、多面的に症例を検討し不妊治療戦略の立て方についてトレーニングを行う。抄読会を定期的に行い、生殖医療に関する最新の知識を up date している。
単年度専攻医受け入れ可能人数	5 人。

春木レディースクリニック

指導医	春木 篤
疾患の比率	生殖内分泌 95% 女性ヘルスケア 5%
医師数	2 名
病床・患者数	無床診療所、外来患者数 14000 人/年 子宮卵管造影検査数 500 件/年 卵管鏡下卵管形成術 200 件/年 人工授精数 850 件/年 採卵数 350 件/年 胚移植数 400 件/年
病院の特徴	不妊治療専門のクリニックです。子宮卵管造影検査が非常に多く、卵管閉塞などの卵管因子に対してカテーテルを用いた卵管鏡下卵管形成術も数多く実施している。また、多嚢胞性卵巣症候群をはじめとする排卵障害に対して、副作用が少ない遺伝子組み換えFSH製剤を用いた低用量漸増投与方法による排卵誘発を数多く実施している。体外受精・顕微授精などの生殖補助医療も年々増加しており、妊娠成績も良好に推移している。

研修の特徴	生殖内分泌・不妊症に対する検査および治療と異常妊娠の早期発見およびその対処法に関する基礎知識の習得を目指すべく、定期的に抄読会や到達度試験を実施し、不妊症例に対して適切な検査・治療計画が作成できるレベルまで数多くの症例を経験することが可能。また、最先端のタイムラプスを用いて受精から胚発生までのメカニズムに関する研修などを実施し、配偶子および胚の発生に関する基礎的な知識の習得を目指す。
臨床研修の内容	生殖内分泌に関する基本的な検査（超音波検査による子宮内膜や卵胞径の計測、子宮鏡による子宮内腔の観察、子宮卵管造影検査）を実施し、得られた所見を基に正確な不妊原因の究明を指導医とともにやり、同時に治療計画を策定する。また、人工授精法および生殖補助医療における基本的な採卵術および胚移植術を指導医のもとで研修の上、実際に実施する。そして少なくとも1ヶ月間は、基本的な配偶子操作などの胚培養業務も研修する。研究活動として、胚培養士を含むスタッフとの合同カンファレンスでの症例提示や抄読会発表に加えて、学会発表、論文執筆・投稿を積極的に行う。
単年度専攻医受け入れ可能人数	2名

済生会千里病院

指導医	武曾 博 、大上 健太
疾患の比率	周産期 30%、婦人科腫瘍 50%、生殖内分泌・女性ヘルスケア 10%
医師数	3名
病床・患者数	26床・外来患者数 15600人/年
病院の特徴	当科は腹腔下手術が専門であり、2015年度の腹腔鏡下手術症例は269例で、主要術式としては、子宮付属器腫瘍摘出術 108例、腹腔鏡下子宮摘出術 TLH 82例、腹腔鏡下筋腫核出術 LM 52例。婦人科良性疾患のうち、子宮筋腫・子宮腺筋症・卵巣嚢腫については腹腔鏡下手術の適応としている。当院は日本産科

	婦人科内視鏡学会認定の指導施設となっており、技術認定医が常勤している。また院内雑誌は医学中央雑誌に掲載されており、日本産科婦人科内視鏡学会および日本内視鏡外科学会の技術認定医取得に有利な環境である。
研修の特徴	婦人科手術については日本産科婦人科内視鏡学会および日本内視鏡外科学会の技術認定医が指導する。産科は正常妊娠および分娩を中心として、異常を早期に見極める能力を養う。
臨床研修の内容	婦人科において、良性疾患では腹腔鏡下手術、悪性疾患では開腹手術における手術手技の基本から応用までを習得する。産科において、指導医のもとでの妊婦健診を担当し、正常妊娠経過と分娩を理解する。
単年度専攻医受け入れ可能人数	1名

市立柏原病院

指導医	安藤 哲史、本田 謙一
疾患の比率	周産期 60%、婦人科腫瘍 30%、生殖内分泌・女性ヘルスケア 10%
医師数	5名
病床・患者数	220床
病院の特徴	「日本産科婦人科学会専門研修施設」
研修の特徴	NICUはないため妊娠35週までの早産には対応できないが、妊娠・分娩のトータルケアを実践、婦人科手術も内視鏡も取り入れておこなっており、生殖内分泌・女性ヘルスケアにも関われる。
臨床研修の内容	妊娠・分娩の管理、産科手術をなど・婦人科手術の基本術式から内視鏡などを利用した最新の医療も実践できる環境を提供。
単年度専攻医受け入れ可能人数	1～2名

和泉市立病院

指導医	梅咲直彦、中野雄介
疾患の比率	婦人科腫瘍 80%、女性ヘルスケア 20%
医師数	常勤 4 名、非常勤 1 名、計 5 名
病床・患者数	病床数 婦人科：15 床 年間手術件数 約 200 例/年 新規浸潤癌約 40 例/年 外来患者総数 約 9000 例/年
病院の特徴	サブスペシャリティである婦人科腫瘍専門医の取得可能。 また、他科との連携によりがん薬物療法認定医も取得可能。
研修の特徴	婦人科腫瘍に特化した研修が可能です。良性から悪性まで幅広く診断、治療が可能です。豊富な症例を手厚い指導にて研修することができる。
臨床研修の内容	指導医とともに患者さんを担当し、産婦人科診療に必要な基本的な姿勢、技術を身につける。基本的な手術手技から悪性腫瘍における専門的な手術手技までの技術を身につけることが可能。腫瘍内科との合同抄読会を行うことでプレゼンテーション能力の向上ならびに婦人科悪性腫瘍以外における先端医療を学ぶことが可能である。
単年度専攻医受け入れ可能人数	1-2 名

市立岸和田市民病院

指導医	出口昌昭、松本佳也、西村貞子
疾患の比率	周産期 20%、婦人科腫瘍 70%、 生殖内分泌・女性ヘルスケア 10%
医師数	5 名
病床・患者数	病床 17、分娩数 150 件/年、婦人科手術件数 220/年
病院の特徴	平成 25 年 10 月から婦人科診療を再開。3 名の婦人科腫瘍専門医に加え、放射線治療医、腫瘍内科医、緩和ケア内科医等の医師も常勤し、泉州地区唯一の国指定地域がん診療連携拠点病院として、放射線治療設備（画像誘導放射線治療：IGRT）・PET-CT

	<p>等設備も充実している事より、がんに関する集学的治療が可能となっている。また平成 24 年には緩和ケア病棟も開設。平成 26 年 5 月 12 日から産科診療・産直制度を再開し、24 時間・365 日産婦人科医師が常駐し分娩管理や妊娠中の異常に対応している。</p>
研修の特徴	<p>病院全体で、月平均 500 件の救急搬送を受け入れているため、救急症例を含めた、あらゆる婦人科疾患を指導医とともに経験が可能で、産科再開後、分娩件数も徐々に増加傾向にあり周産期領域の症例数も今後増加が期待される。</p>
臨床研修の内容	<p>専門研修 1 年目：指導医とともに様々な領域の疾患の患者さんを担当し、産婦人科診療に必要な基本的な姿勢、技術を身につける。分娩管理に加え、帝王切開や単純子宮全摘術など基本術式の第 1 助手を担当する。</p> <p>研究活動：カンファレンスでの症例提示や、院内症例検討会での発表に加えて、学会発表、論文執筆・投稿を行います。</p>
単年度専攻医受け入れ可能人数	2

泉大津市立病院

指導医	西尾順子
疾患の比率	周産期 60%、婦人科疾患（主に良性腫瘍）20% 生殖内分泌・女性ヘルスケア 20%
医師数	6 名
病床・患者数	病床 26 床、分娩数 700 件/年、婦人科手術 60 件/年、搬送受け入れ数 40 件/年、外来患者数 16000 人/年、入院患者数 1 日平均 23 人
病院の特徴	<p>産科を主とし、地域周産期センターとして認定されている。</p> <p>O G C S に加盟し、泉州地域の産科一次救急にも協力して母体搬送の受け入れもおこなっている。周産期〈母体・胎児〉専門医取得可能。院内保育施設あり。</p>

研修の特徴	周産期症例については多くを経験できる。総合病院であることより、他科との協力体制で合併症妊娠も受け入れ可能である。社会的ハイリスクの妊娠も多く、患者の背景を考える機会になる。新生児の診察は必修で、新生児内科や小児科医師からの指導もうけることができる。外来担当をすることにより女性のヘルスケア・内分泌疾患に関しても経験できる。
臨床研修の内容	研修3年目：外来の担当（産科 婦人科）を経験し、妊婦健診の流れを理解し周産期の管理に習熟する。 産科救急時の対応。無痛分娩希望の患者も多く、希望により麻酔科研修を短期間行う。外来における婦人科疾患等に対する検査や診断の流れを実際に経験する。婦人科良性疾患について治療、手術等を行う。カンファレンス、抄読会は定期的に行っている。
単年度専攻医受け入れ可能人数	1名

住吉市民病院

指導医	康 文豪
疾患の比率	周産期 45%、婦人科腫瘍 30%、生殖内分泌・女性ヘルスケア 25%
医師数	5人
病床・患者数	病床 40 床、分娩数 600 件／年、婦人科手術 170 件／年 外来患者数 18000 人／年
病院の特徴	地域周産期母子医療センターとして、NICU を完備した新生児科と連携した周産期医療を行っている。婦人科良性疾患は主に内視鏡（腹腔鏡・子宮鏡）手術で対応している。人工授精までの一般不妊治療や遺伝カウンセリングや羊水検査などの出生前診断も実施。サブスペシャリティである日本周産期・新生児医学会認定・周産期（母体・胎児）専門医および日本産科婦人科内視鏡学会認定・技術認定の取得可能施設である。

研修の特徴	周産期疾患の診断・治療、良性疾患に対する内視鏡手術、生殖内分泌疾患や女性ヘルスケアなど様々な症例をそれぞれの専門医や認定医などによる手厚い指導にて研修することが可能。
臨床研修の内容	専門研修1年目：指導医とともに様々な領域の疾患の患者さんを担当し、産婦人科診療に必要な基本的な姿勢、技術を身につける。帝王切開、単純子宮全摘術、内視鏡手術など基本術式の第1助手を担当する。 研究活動：研究会・学会発表、論文執筆・投稿を行う。
単年度専攻医受け入れ可能人数	1名

十三市民病院

指導医	中田真一
疾患の比率	周産期 60%、婦人科腫瘍 10%、生殖内分泌・女性ヘルスケア 30%
医師数	4人
病床・患者数	病床 35 床、分娩数 600 件/年、婦人科手術 110 件/年、外来患者数 12500 人/年
病院の特徴	地域中堅病院として高次医療機関と連携しながら生殖医療以外のあらゆる分野の診療を行う。周産期分野において WHO の「赤ちゃんにやさしい病院」取得。帝王切開率 15%。
研修の特徴	周産期分野においては正常妊娠を中心に扱い、異常妊娠に対する早期対応方法を研修する。出生前診断については臨床遺伝学専門医が指導。婦人科疾患については良性から悪性まであらゆる症例について婦人科腫瘍専門医および女性医学学会専門医による指導にて研修する。
臨床研修の内容	基幹病院にて行った研修をもとに、実践トレーニングとして様々な領域の患者の担当医になり、分娩や手術の第一助手として研修してもらおう。また当院では外来診療も担当してもらい、診断能力のトレーニングを上級医の指導のもとで行う。

単年度専攻医 受け入れ可能 人数	1-2名
------------------------	------